

〈祈りのために〉

「世から選び出してわたしに与えてくださった人々に、わたしは御名を現しました。彼らはあなたのものでしたが、あなたはわたしに与えてくださいました。彼らは、御言葉を守りました」
(ヨハネによる福音書 17 章 6 節)

主イエスは、大祭司の祈りの中でこのように弟子たちのために父なる神に祈ってくださいました。弟子たちは父なる神が「世から選び出して」御子に与えてくださった人々です。「御名を現しました」とは、御子を信じた者たちに御子を遣わした父なる神を現わしたということであり、また、主イエスと父なる神が一つであるということを示したという意味です。信じる者たちは、主イエスによって、この二つの真理を知るのです。主イエスのこの祈りによって、イエスをキリストと信じる者たちは「世から聖別されて神のものとされている」ということを深く認識することができます。

主イエスは弟子たちが神のものであることの証しとして「彼らは、御言葉を守りました」と父なる神に執り成して下さいます。そして、「わたしに与えてくださったものはみな、あなたからのものであることを、今、彼らは知っています」(7 節)とも弁護して下さっています。父なる神が主イエスに与えたのは、神の力であり、その力で御子はしるしを行い、神の御言葉を語られたのです。その主イエスのみ業と御言葉が「神から出たものである」と信じることが、永遠の命なのです。受難を前にした祈りにおいて、主イエスは既に、信じる者たち

が御言葉を守り、主イエスが神から賜った力で父の御心を行ったと見なして下さっているのです。

「今、彼らは知っています」とする理由をイエスは「わたしはあなたから受けた言葉を彼らに伝え、彼らはそれを受け入れて、わたしがみもとから出てきたことを本当に知り、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じたからです」(8 節)と述べるのですが、弟子たちが主イエスの御言葉を受け入れて、主イエスが神の御子であると知ることは、父なる神が御子を地上に遣わされたと信じることになるのです。認識と信仰の一致は、私たちにとっても大事なことです。なぜなら、主イエスは私たちにもそれを望んでおられるからです。キリストと教会の正しい関係もこの一致の上に築かれるのです。この正しい関係において、キリストは教会の頭となり、教会はキリストの体となるのです。

主イエスの大祭司の祈り(17 章)はいつも私たちを慰め、励まします。私たちも主に倣い、この世においていかなる状況に置かれていても、主に信頼して世の人のために祈ることができるのです。また、祈らねばならないのです。

〈祈り〉 父なる神よ、教会はあなたによって世から聖別され、御子イエス・キリストと結ばれた共同体です。どうか、あなたの御言葉と御霊によって、あなたを益々深く知り、堅く信頼し、あなたの愛をもって真の平和を世にもたらしことができますように、終わりの日まで導いてください。
(糸 広国 (函館相生教会牧師、大会靖国神社問題特別委員会委員)

新シリーズ『いま なぜ 大嘗祭か』を読みなおす(28)

川越 弘(沖縄伝道所牧師)

Q27 キリスト者は「天皇」を神さまだと思わないから、それでよいではありませんか?

A 昔からキリスト者はだれも「天皇」のことを神さまとは思っていませんでした。「天皇」を一番偉いとし、ありがたいとする風潮の中でも変ることはありませんでした。しかしそれにもかかわらず、第二次世界大戦における日本の敗戦まで、日本のキリスト者の大部分は、「天皇」が神ではないことを正しく力強く証しすることをしなかったのです。あるいは意識的に「天皇」のことは触れないできたのではないのでしょうか。そしてその時キリスト者は、「天皇」をすべてのものの上に置こうとする政治状況、時代の風潮の中で、結果的には「天皇」を神とする全体状況を認めることになってしまいました。

すると、天皇問題は、単にキリスト者がその信仰においては「天皇」を神とは思わないからそれでよい、というようなことではすまないものです。わたしたちキリスト者が「天皇」を神とは思っていなくても、他の人々が「天皇」を神格化する時、「天皇」は偶像化されるのです。そしてキリスト者もその全体状況の中に巻き込まれてしまうのです。

新 Q28-1 キリスト者は、天皇を神とっていなかったにもかかわらず、どうして政治と時代の風潮の中で「天皇」を神とする国の全体状況を認めたのでしょうか。

新 A28-1 確かに、1917年(大正6年)に日本基督教会第31回大会が開かれ「神社に関する決議」を行った時、神社非宗教論を否定し、神社参拝を強制されることは大日本帝国憲法の信教の自由に抵触するという意思を表明したのです。にもかかわらず、戦前・戦中の日本の教会は、この国の精神風土に調和し一致しようとする努力の歴史でした。キリスト教会は、信仰がこの国の国体観念と矛盾しないかということ、弁明し弁証することに注がれていました。こうして神と偶像の両方に仕えて、教会と信仰者を守ろうとしたのです。

新 Q28-2 天皇神格化がいろいろなかたちで私たちの周りに起こりつつある中で、どうしたらそのことに敏感になることが出来るのでしょうか。

新 A28-2 この国において、今やまさに、天皇の神格化が様々な仕方で民衆を偶像の奴隷にしております。私たちキリスト者がそのことを知る

のは、聖書によって崇めるべき真実の権威を知らされており、被造物である人間が偽りの権威として扱われる危険性を知っているからです。そのためにキリスト者は、この国で異質な存在であることを自覚することです。

新 Q28-3 それでは、キリスト者はこの国では「よそ者」ということになるのですか。

新 A28-3 「よそ者」となることは、必然的で避けることの出来ないことです。いや避けてはならないのです。むしろそれを、光栄ある重荷として担い続けなければならないのです。そのためにキリスト者は、今後も長い間この国では少数者でありましょう。しかし、そのことで悲しんだり恥じたりする必要はありません。

新 Q28-4 どうして光栄ある重荷なのでしょう。

新 A28-4 この国の民衆に対する教会の最大の奉仕だからです。ヨーロッパの歴史において、宗教改革運動は信仰の自由を獲得する運動であり、権力者からの迫害の連続でしたが、その結果、近代国家の誕生に一役を担ったということ、思うべきです。そのような自覚と確信をもって、この国の中に異質な者としてあり続けるべきです。

ウチナンチュ(沖縄出身の方々)に仕えるということ

西浦昭英(沖縄伝道所会員)

一昨年4月に沖縄・名護に移住してから2年が過ぎた。2018年12月から、辺野古新基地建設のための埋め立て工事に使われる土砂搬入が始まり、搬出元である名護市安和と本部町塩川では、工事を少しでも遅らせるため、連日抗議行動が行われている。当初私は、修学旅行生を案内するボランティアの平和ガイドをしたいと考えていたが、名護に居を構え、辺野古では大浦湾に入って来る運搬船に対抗するために抗議船に乗り、安和・塩川では車や徒歩による抗議行動に加わるために、ほぼ毎日出かけている。

まず、「本土」から沖縄に移り住み、ウチナンチュ(沖縄出身の方々)への思いを語った印象的な二人のキリスト者の言葉を紹介したい。

私は1992年、修学旅行の引率で初めて沖縄を訪れた。戦跡や基地への関心と同時にハンセン病問題を知り、並行して取り組み始めた。全国にある13の国立ハンセン病療養所の中で、名護市屋我地島にある沖縄愛楽園は、激しい迫害の中、唯一患者らが自らの手で土地を購入し設立された。設立者青木恵哉は徳島県出身で自らもハンセン病患者だった。自叙伝「選ばれた島」(新教出版社)に、「不潔でみすぼらしい病友たちと犬小屋同然の小屋で寝起きを共にし、三度三度甘藷と野菜汁ばかりで彼らの貧しい生活の中に身を置いていた。どうしても彼らの生活の中に完全に溶けこまねばならぬ。私は、彼らの友人としてふさわしいように粗末な霜降りの古洋服に着替えたのである。」という言葉が見つけた(「選ばれた島」には、患者が部落外れに建てられた掘立小屋に住んでいた記述がある。私が毎日通っている安和にもかつて小屋があり、嫌がらせの放火事件も起きた。なお「選ばれた島」は、故渡辺牧師が再版に協力された)。

2019年11月、大阪からエルダー宣教師(大阪女学院名誉教授)を招いて、50年ぶりに再会した平良修牧師との講演会が行わ

れた。1966年、平良修牧師から高等弁務官就任式の祈りの翻訳の相談を受けたエルダー宣教師は、祈りの内容を知り賛同した。エルダー宣教師は、米国人がフリーで基地に入れるパスをもらわなかったし、病気になった際、設備の良い基地内の病院に入院しなかった。また、本土復帰デモに、米国人としてただ1人参加した。講演の中で「私は沖縄の教会の宣教師として、牧師として来た。沖縄の人々と一緒に生活する、沖縄の問題は私の問題だ」「パスをもらうことは、沖縄の人々への裏切りだ」と語られ、とても印象に残った。なお、この講演会の開催に尽力された長谷川洋一大阪女学院副理事長は、日キ教会池田教会の長老である(講演をまとめた小冊子があるので、連絡を下されば送ります。BXL06045@nifty.com)。

毎日夜8時までダンプの搬入があり、約1400台分の赤土が運ばれてくる。安和棧橋には、昼間は県内から10~20人が抗議に集まるが、夕方は数人になる。夜になると機動隊員も減り、若い隊員と一対一になる機会が結構ある。「抗議者と話をするな」と言われているそうだが、ダンプの前をゆっくり歩いていると「上司が見ているので、申し訳ないですが背中を押しますね」と軽く背中を押された。ある時唐突に「うちの妻は今妊娠7ヶ月なんです」と言われた時は戸惑った。咄嗟に、「出産の日は、休暇取って、立ち合うといいよ。何もできないけど、奥さんの手を握ってあげなよ」と言った。

機動隊員は抗議者を排除する仕事をしているが、本音では新基地の建設には反対だし、非暴力で抵抗している市民と敵対関係にはなりたくないと思っている人も少なくない。沖縄を差別してきた「本土」で60年以上生活してきた人間が、そうしたウチナンチュとどういう関係を築いていけばよいかと考えつつ、ささやかな楽しい会話をしながら、沖縄で暮らしている。

<ヤスクニ問題関連ニュース> * 印コメントは報告者;小塩海平

○「コロナのピンチをチャンスに」 改憲 巡り自民・下村氏

自民党の下村博文政調会長は憲法記念日の3日に改憲派の集会に出席し、党改憲案の一つである緊急事態条項創設の実現を訴える中で感染症拡大を緊急事態の対象に加えるべきだと述べ、「今回のコロナを、ピンチをチャンスとして捉えるべきだ」と語った。

下村氏は、今の憲法は占領下で制定されたため緊急事態に関する規定が衆院解散時の参院の緊急集会しかないとし、「独立後も70年改正されず時代の変化に対応できていない」と主張。「いま国難だが、ピンチをチャンスに変えるように政治が動かねばならない」とし、昨年立ち上げた党内の議員連盟で「感染症を緊急事態に入れるべきだと提案した」と紹介した。(朝日新聞:2021.5.3)

*多くの人がコロナで家族や仕事を失っている中で、他者の不幸を自分のチャンスにしたいというのが改憲論者の本音のようだ。

○大嘗祭の使用米「とちぎの星」

皇位継承の重要祭祀(さいし)「大嘗祭(だいじょうさい)」で使われたコメ「高根沢町産とちぎの星」をPRする短編動画二本が完成した。「道の駅たかねざわ 元気あっぷむら」のYouTubeチャンネルで公開しており、町の担当者は「町産をアピールして、販売促進につなげたい」と期待する。(東京新聞:2021.05.07)

○人種差別で高額慰謝料

在日朝鮮人の家族を持つ神奈川県内の男子大学生(18)が、ブログ上での差別的投稿で民族的アイデンティティーを傷つけられたなどとして、書き込んだ大分市の男性に300万円の賠償

を求めた訴訟の控訴審判決が12日、東京高裁であった。白井幸夫裁判長(相沢哲裁判長代読)は「書き込みは極めて悪質」と判断した上で、一審横浜地裁川崎支部が男性に命じた賠償額91万円を130万円に増額した。

賠償額のうち100万円は慰謝料で、学生の代理人弁護士によると、1回の書き込みに対しては異例の高額。判決は人種差別そのものを違法としており、ヘイトスピーチの抑止効果も期待できるという。(時事通信:2021.5.12)

○入管法改正、今国会断念

政府・与党は入管法改正案について、事実上の廃案に追い込まれた。新型コロナウイルスの感染拡大が続き、内閣支持率が下落する中、改正案を強行採決すれば世論の反発を招く。次期衆院選や夏の東京都議選などに悪影響が出かねないと警戒し、国会審議の紛糾を回避した。政府・与党はもともと、入管法改正案が、世論の注目を集める法案とみていなかった。名古屋出入国管理局で3月、スリランカ人女性のウィシユマ・サンダマリさんが亡くなり、野党が法務省に、入管施設の監視カメラ映像の開示を求めても、自民党幹部は「世論の関心はさほど高まっていない。開示しなくても問題はない」との認識を示していた。与野党の修正協議が14日に決裂すると、この幹部は「野党には十分配慮した。17日の週に衆院を通過させる」と明言していた。

風向きが変わったのは、先週末だ。報道各社の世論調査で、内閣支持率が相次いで低下。新型コロナウイルスの感染収束が見通せず、緊急事態宣言の対象追加を巡り、政府方針が迷走したことが一因とみられる。(毎日新聞:2021.05.18)

<編集後記>自民党のLGBT新法を巡る会合で「道徳的にLGBTは認められない」との発言がなされたそうだ。いまの自民党が道徳を語ること自体、道徳的に許されるのだろうか。(K.K.)

797号ヤスクニ通信 2021年6月13日 発行 日本キリスト教会靖国神社問題特別委員会 発行人・編集・発行 小塩海平(東京告白教会)
